

(参考2) 地域における多様な主体の連携による保全活動

- ・各地域において、多様な主体の連携による保全活動が実施されている。
- ・これらの活動は、我が国における生物多様性の保全の推進に重要。

地域における保全活動の例

☆地域一体となった取組

コウノトリの野生復帰を目指している地域では、先般放鳥された地域のシンボルである当該種の野生復帰を図るため、県や市、地域住民、農家など様々な地域の主体が連携・協力して、コウノトリの餌場となる水辺の整備、水田における減・無農薬農法による米作り、市民参加型の田んぼの生き物調査、野生復帰に向けた研究等、地域ワークショップの開催等の活動を実施。



餌場となる水辺の整備

☆地域における希少種の保護

能登半島のため池が点在する地域では、希少な水生昆虫類の生息環境を保全するため、県や市、大学、NPO団体等が連携・協力して、水生昆虫類の生息状況調査やビオトープの整備、水生昆虫類を捕食するオオクチバスやアメリカザリガニ等の外来種の防除等の活動を実施。



生息状況調査

☆地域における外来種の防除

八重山海域では、国や県、市、地元の漁協、ダイビング協会等が連携・協力して、サンゴを捕食するなど生態系に悪影響を及ぼすオニヒトデの防除やサンゴの生息状況調査等の活動を実施。



地元ダイバーによる防除

☆二次的自然の保全・管理活動

首都圏郊外の地域では、社会状況の変化により人の働きかけが減少し荒廃が懸念される里地里山の保全・管理を図るため、市と地元の関係団体(小学校、森林組合、NPO団体等)によって構成される協議会が連携・協力して、森林の間伐や下草刈り、ほだ木作り、ホタルの生息地の保全、自然体験学習等の活動を実施。



竹林の伐採

☆野生鳥獣の保護管理

近畿地方のニホンジカが増加している地域では、生態系や農林業に係る被害を防止するため、県や市、猟友会、商工会等が連携・協力し、シカの行動圏や自然植生・農林業への被害状況の調査、個体数調整、シカ防護柵の設置、シカ肉を活用した地域活性化に向けた取組等の活動を実施。



シカ防護柵の設置